



心地良い、いい加減さとだらしなさ

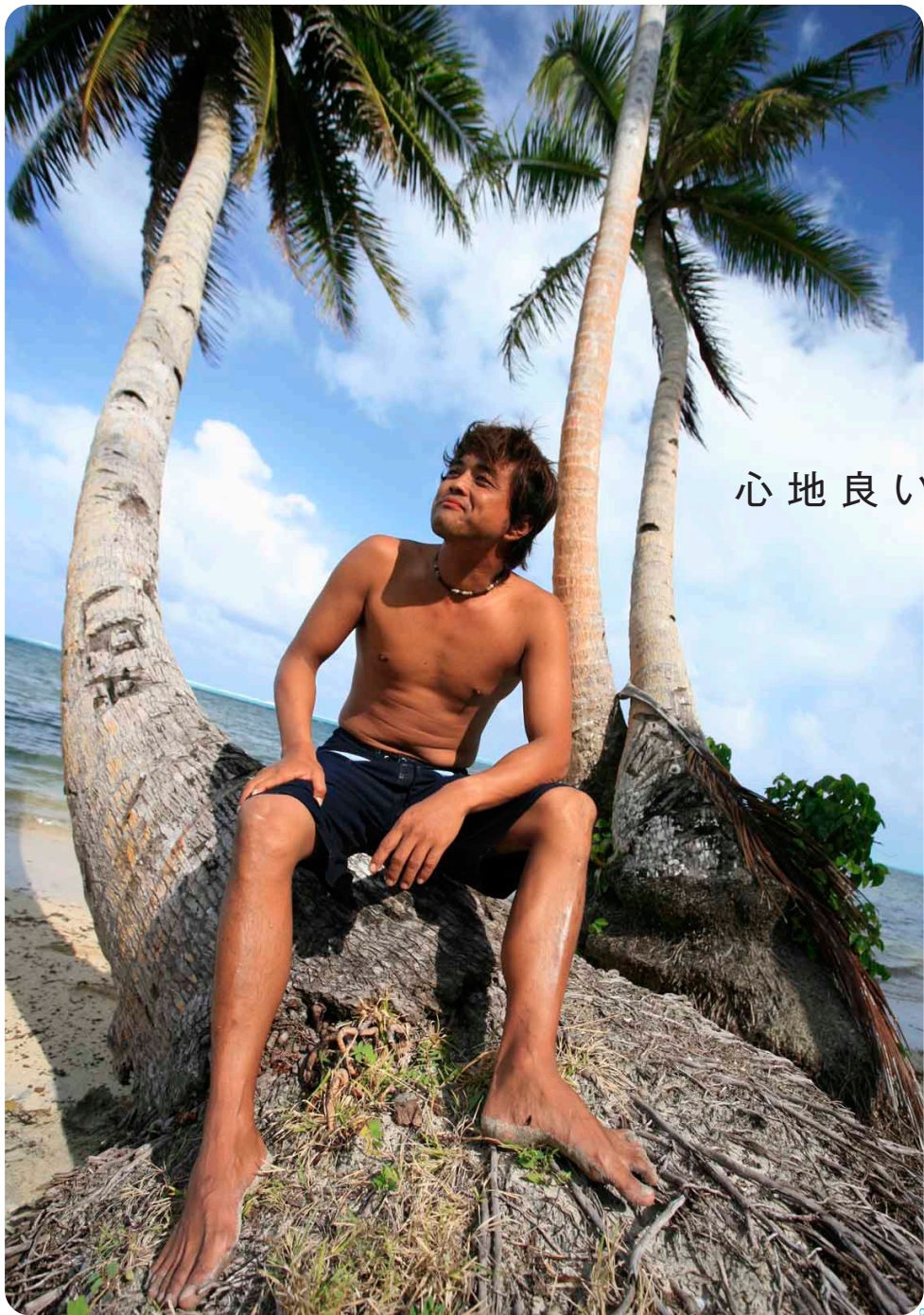
ヤップ島 滞在記

Photo&Text **Takaji Ochi**
Special thanks **Yap RiZE Diving Center , World Tour Planners**

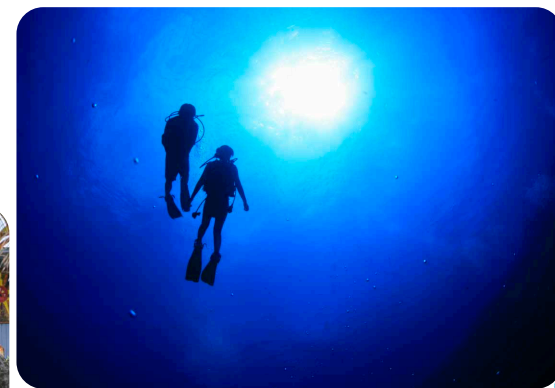
Yap island stay note
Web-lue 2007. Summer

Information Link  <http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm> 関連情報HPへ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



ヤップ島 滞在記 '07



心地良い、いい加減さとだらしなさ

ここ3年ほど、毎年ミクロネシアのヤップ島を訪れるようになった。僕にとっては、当然のことながら、最初は取材で訪れた。ミクロネシアエリアの島々で、それまで訪れたことがなかったのがヤップとコスラエ。それが、いつの間にか、プライベートでもリポートしてヤップ島を訪れるようになったのには、それなりの訳があった。

第一の理由は、「2月頃には、マンタの交尾が見られるかもしれないんですよ。もしかしたら、撮影もできるかも」。そんな事を、現地ダイビングサービス、ヤップライズダイビングセンター(以下ライズ)のオーナーガイド、ジョウミダスケ君から、何度も聞かされたからだ。「マンタの交尾シーン、撮れるものなら、撮影してみたい」。プロ水中カメラマンとしての好奇心が、その言葉に揺り動かされた。マンタといえば、石垣島やモルジブなど、高確率に遭遇できる海を知っている。だけど、ダイバーの少なさや、クルーズではなく、島滞在で、すぐにマンタのポイントに行ける手軽さが、そういう撮影する上では、好都合だと思った。

第二の理由、それは、オーナーガイドであるダイ

スケ君のキャラクター。最初に会ったときから、妙に浮世離れた不思議な存在感を漂わせていた。ダイビングで海に潜っている以外は、常にビンロウ樹の実をくちやくちやと噛んでいる。自分のビンロウ樹がなくなると、ヤップ人に「ねえ、チューちょうだい」とへらへらしながらせがんでいる姿をよく見かける。ヤップ人も、それが当たり前のことのように、ヤシの実で編んだ自分のカゴの中から、ビンロウ樹の実を取り出して彼に分け与えていた。

取材で「これはできる?」と質問をすると、相変わらずくちやくちやと実を噛みながら、必ず「うん、できますよ」と、ちょっと遠くを見るような視線で答えるのだけど、実はできなくても、そう答える。要するに否定しないわけだ。

はっきり言って、かなりいい加減な性格だと言っている。しかし、文章では上手く表現することができないのだけど、彼のいい加減さが、自分には妙に心地がいいのだ。これは、実際にヤップを訪れて、彼に会ってみなければわからないことなんだけど、おそらく、今ライズのリピーターになっている人の多くが、彼のそのいい加減なキャラクターにハマッている人に違いない。

「心地よい、いい加減さとだらしなさ」。僕は、彼と、ライズの雰囲気をごう表現することにした。

01:ヤップライズダイビングセンターのダイスケ君。撮影中も常にビンロウ樹の実を噛み続けている

02:ビーチに面したライズダイビングセンター

03:外洋は、透明度の高い海中に差し込む太陽光を眺めながらただぼーっとしていた



田舎に帰ってきたような、
長閑な時間が
流れるリゾートの日常



01:ジャングルで取れたフルーツをテーブルの上に並べてみたら、こんなに山積みになってしまった
02:早朝、海から登る太陽によって創られた虹が、ヤシの木々の間に顔を出す
03:これは夕日ではなく、朝日が昇った後の風景。朝のダイビング前には、朝日に見送られることになる
04:リゾートの前の道はこんな感じ。3歳の息子が一人でうろちよるしても気にならない
05:地元ヤップの子供たちに混じってビーチではしゃぐ息子。その様子を遠くから見てるだけで幸せになれる
06:子供たちは、当然のように明るい笑顔を見せてくれる



Yap island stay note

Web-lue 2007. Summer





家族を暖かく見守ってくれる、 陽気なスタッフたちの 暖かい笑顔

第3の理由は、ライズの立地。ヤップ島にある他のダイビングサービスや滞在するホテルは、ライズ以外、全て中心地のコロニアあるのだけど、ライズに併設しているビレッジビューリゾートは、コロニアから車で30分ほど走った、マープ島北東部にある、人口30人の村、ワチュラブ村にぽつんと存在している。人里離れたヤップ島の中の、さらに人里離れたワチュラブ村にある、小さな小さなダイビングリゾート。目の前は遠浅のビーチが広がっていて、リゾートのコテージと、ムーンライズカフェ、ライズの後方には、小高い丘が迫っていて、鬱蒼とした熱帯植物に覆われている。このリゾートに続く道は、未舗装で、人が歩くだけの小道のように、のんびりした雰囲気。たまに車がやってくるけど、多分時速5キロも出てないのではというくらいのノロノロしたスピード。村人たちは、自分のペースで仕事をし、自分のペースで休息を取る。まあ、どちらかと言えば、休息を取

てる時間の方が長いような感じだけど。ダイスケ君はそんなヤップ人に混ざって、同じようなペースで生活をしている。「彼みたいなキャラクターでなければ、この島では暮していけないだろうな」と思える。道路脇には、ニワトリの親子が忙しく草をついばみ、ライズで厄介になっている犬やネコたちが、道の真ん中で寝そべっていたり、海岸をとことこと歩いていたりする。

レストランに座ると、海から吹きぬけてくる気持ちの良い風が、優しく顔をなでる。熱帯の島にいるのだけど、風に吹かれて嗅ぐ空気が、新鮮ですがすがしくて、いつまでもここでぼ～っとしていたいと思ってしまう。

初めて訪れたときから、「次にこの場所に来るときは、絶対家族で来たいな」そんな思いがついダイスケ君の目の前で言葉になって出てしまう。「だいじょうぶですよ、来てくださいよ」と何の戸惑いも見せず

にそんな風に言われると、「じゃあ、連れてきちゃおうかな」ってことになる。それで、2度目に訪れたときは、マンタの交尾を狙いながらも、家族でやってきた。マンタの交尾シーンは撮影できなかったけど、2歳になった息子が、遠浅のビーチで、地元の子供たちと嬉しそうに走り回る姿を見ただけで、「来て良かった」と思えた。

そして、3度目、今回もマンタの交尾狙い。ダイビング雑誌の取材も兼ねていた。そして、3歳の長男と、3ヶ月になる次男を連れての、ヤップへの、いやライズへの2度目の家族旅行でもあったわけだ。スタッフが皆、まるで一つの家族のように、子供たちの世話をしてくれる。妻と小さな二人の子供をリゾートに残して、ダイビング取材に毎日かけても、安心していられたのは、そんな理由もあるわけだ。他人から、本当の家族みたいな愛情をそそいでもらっている様子を、僕は遠巻きに見守っていることの方が

多かったように思う。ボートで海から戻ってくると、長男が、ビーチに走り出してきて手を振り、その後方から、次男を抱えた妻が、笑顔で、ゆっくりと歩いてくる。僕はその様子をボートから見守っている。そんな幸せな状況が、取材時の僕に集中力を与えてくれていた。

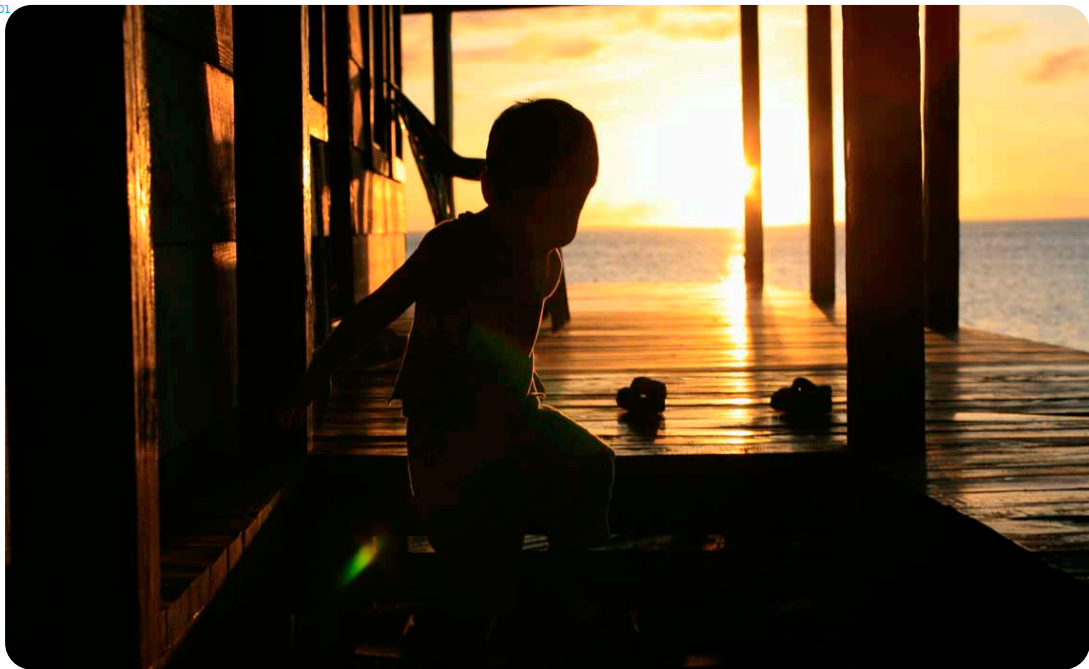
どんなに過ごしやすかったかは、また今年(2007年10月)に家族で行く計画を立てていることでもわかるだろう。

島の雰囲気、リゾートの立地条件、人々の優しさ、そして適度ないい加減さ。周囲を取り囲む全ての条件が、この島に、この場所にまた来たい。そう思わせてくれる場所であることは間違いないのだ。



左:ライズの陽気な仲間たち。いつも何考えてるかわからないけど、楽しそう
右:ムーンライズカフェのバーカウンターでくつろぐ。年齢制限は無い

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



何気ない出来事が、とても幸せに感じられる場



01:朝、日の出とともに部屋を飛び出しビーチへと向かう長男。一人で駆け抜けるのに、「一緒に行こ」とたたき起こされる

02:ビーチの目の前にあり、ヤシの木々に囲まれたムーンライズカフェとライズダイビングセンター

03:誰かが花を摘んで来て、ムーンライズカフェのテーブルの木目のふしにさした。そんな悪戯がかわいらしい

04:ヤップデイで見つけた、伝統的スタイルに身を包んだ子供たち。

Yap island stay note
Web-lue 2007. Summer

Information Link  関連情報HPへ
<http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

肝心の海でのターゲットでもあるマンタの交尾はど
うなったかと言えば、残念ながら、2年連続で撮影
することはできなかった。今回は風が強くて外洋に
出れなかったせいもあるのだけど、連日のように、西
のミルズチャネル1本に絞って、マンタを狙い続けた。
出だしは、数匹のマンタが毎日のように姿を見せて
くれたのだけど、2月末に行われたヤップデイという
お祭りを境に、マンタの姿がブツリと見えなくなっ
てしまった。

この時期、コロニアにある大手のダイビングサービ
スが、「マンタが見れなかったら、ダイビングフィーと
宿泊費を全額キャッシュバックする」というキャンペ
ーンを開催していた。そのせいなのか、狭いミルズチャ
ネルには、1連日、マンタの交尾狙いで100人近い
ダイバーが、潜りに来ていたから大変だ。

マンタの交尾を狙って 悪戦苦闘！

ヤップ島
滞在記 '07

上空を覆いつくすように、僕の頭上でホバリングを続けたマンタ。ゴフヌチャネル

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Yap island stay note
Web-lue 2007. Summer

Information Link  関連情報HPへ
<http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm>



交尾も
ホワイマンタも
次回のお楽しみ



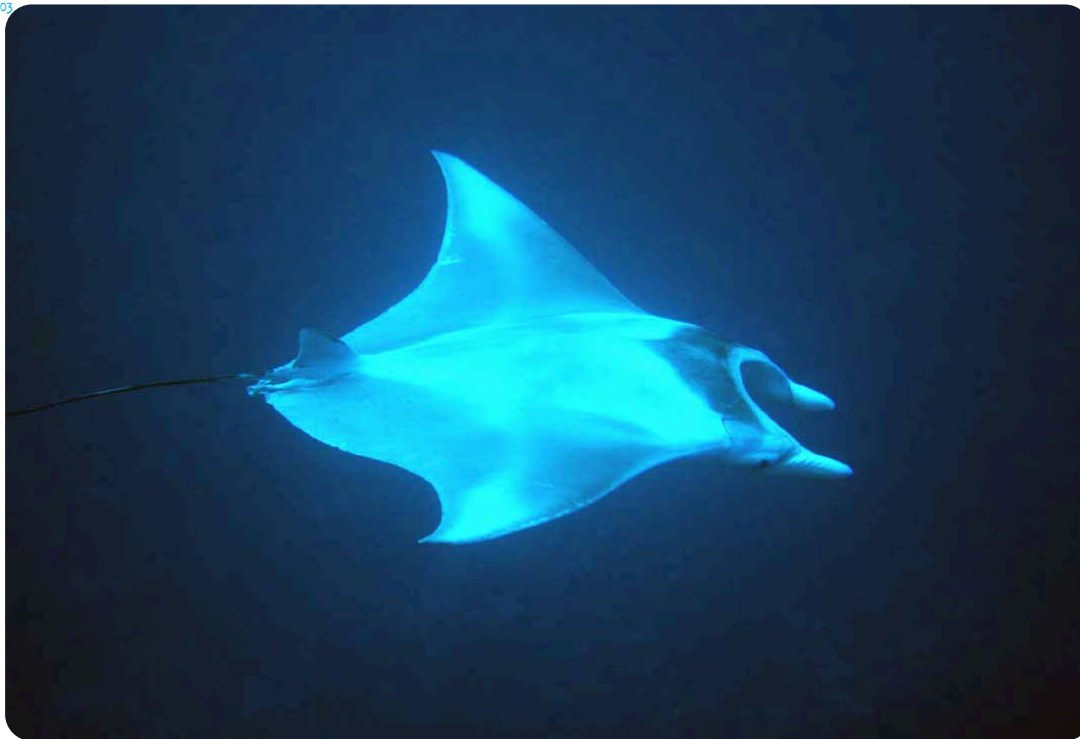
僕は、「撮れないね～。マンタいないね～」と若干打ちひしがれながらも「自然のことだからしょうがないよね～」と諦めてしまえば、まあいいのだけど、そのサービスのマネージャーはきっと頭を抱えていたに違いない。実際のところ、被害総額(?)も聞いたのだけど、はっきりしたことは教えてくれなかった。でも、かなりシャレにならない金額になっているという噂だけは流れてきていた。

まあ、それはそれ、確かにマンタの交尾は無念にも2度続けて撮影することはできなかった。しかし、現地で面白い情報も手に入れた。

ホワイマンタだ。僕らが来る前の大潮のときに、ゲストによって撮影されたマンタの写真。真っ白というよりは、若干グレーがかっているようではあるが、明らかに通常のそれとは違う。ヤップに到着してす

ぐに「じゃあ、ターゲットは交尾とホワイマンタですね」なんて大口を叩いていたのだけど、結局両方見ることはかなわなかったわけだ。

仕事としては、大はずれ。しかし、個人的には、いつもへらへらしているダイスケ君が、さすがにこのときばかりは必死になって、「あっちにいるかも知れないから、あっち行ってみましょう」。「こっちかも知れないな～」とあまり当らない堪を働かせながら、まるで濃霧に包まれたかのような透明度の悪いチャンネルの中で、僕を引きずりまわした挙句、結局見つからなくて「駄目、やっぱ、ヤップにマンタいないわ。誰?マンタの島なんて言ったの!」と投げ出し、翌日になると、また同じことを繰り返す。そんな数日間を一緒に過ごしたことが、いらいらするどころか、妙に楽しくて、楽しくてしょうがなかった。



01:PCの画面で、ゲストが撮影した写真を見せてもらう。確かにホワイマンタだ
02:連日、交尾とホワイマンタ狙い(?)で船を出したが……
03:取材1週間前の大潮にゲストによって撮影されたホワイマンタ。見たかった～!(撮影:吉見祥子さん)
04:交尾は見れなかったものの、マンタの乱舞は、通年見れる可能性が高いそうだ(撮影:ジョウミダイスケ氏)

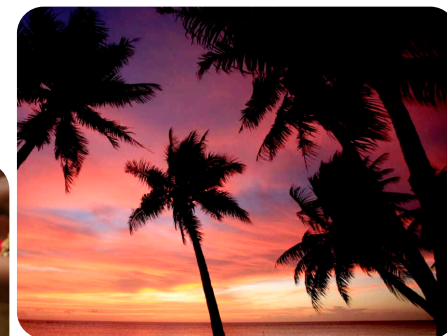


01

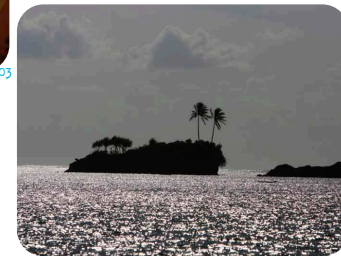
- 01:ライズダイビングセンターの陽気な仲間たち
- 02:「とったど〜!」とどこのコメディアンに真似をするダイスケ君。自分で釣ったんじゃないのに……
- 03:ヤップデイでは、伝統的な衣装に身を包んだ現地の人たちのダンスを見ることができる
- 04:朝焼けに染まる、ワチュラブ村のビーチ
- 05:ダイビングからの帰り道に見えるヤンの木2本の可愛い島



03



04



05

海にこだわらない、 ダイビングリゾートライフ

いつしか、「マンタの交尾はもうどうでもいいよ」と思えるようになった。それでもまたこの島に来ようと思うのは、今の僕たち家族にとって過ごしやすい場所というだけでなく、ダイスケ君というへんでこりんな生き物にも会えるってことだったりする。もちろん、彼(否、奴かな)一人だけいたのでは、面白くはあっても、まともな生活はできないし、却って家族が路頭に迷ってしまうのは目に見えている。

奴の周囲を取り巻く、ヤップ人やミャンマー人、フィリピン人のおかしなおおかしな仲間たち。そして、唯一無二の頼りになる妹のサヤカちゃんがいなかったら、きっと「また家族で来るよ」とは言っていないかもしれない。

彼女の存在が、ほぼ無法地帯のライズチームを、しっかりと取りまとめている。例えらしたら、子供大将のダイスケに、大人参謀のサヤカって感じ。妹に頭の上から駄目兄は、それでも人々から愛されるし、その適当なキャラクターが、人々に安らぎを与えてくれる。「ああいう人がいると、安心しますよね。でもきっと彼

は日本には住めないだろうな……」バハマで会った、ライズ経験者の女性がそんなことを言っていた。そう、そうなんだよね。

海の紹介をしたくても、ほとんどマンタの出なかったポイントに潜り続けてしまったから、実はほとんど海中を紹介することができない。このリベンジは10月に再度訪れたときに果たそうと思っている。だけど、ここで僕が言いたいのは、やっと取れた休みでダイビングをしに行くのだから、もちろん海の中の情報も大事だとは思っただけど、ヤップでは、いや、ライズでは、人とのコミュニケーションを楽しみながらそこにダイビングを楽しむスタイルをお勧めしたい。そういう楽しみ方をしたいライズリピーターが、実は僕の周囲で密かに増殖中なんです。知ってましたか?

**ヤップ島
滞在記 '07**



02

Yap island stay note
Web-lue 2007. Summer